AI 2027 ウェブサイトの内容と評判に関する分析レポート

Gemini Deep Research

I. はじめに

本レポートは、ウェブサイト「AI 2027」（https://ai-2027.com/）の内容、目的、運営者、および外部での評判について詳細な分析を提供するものである。AI 技術の急速な進展とその社会的影響に対する関心が高まる中、同サイトは近未来における超人的 AI の出現とそのインパクトに関する具体的なシナリオを提示し、注目を集めている。本分析では、サイト自体の情報と、検索エンジン、ソーシャルメディア、フォーラム等から収集した外部の評価や批判を統合し、AI 2027 プロジェクトの全体像、信頼性、およびその議論における位置づけを明らかにすることを目的とする。

II. ウェブサイト「AI 2027」の概要分析

A. 主な目的、情報・サービス、対象読者 [1]

ウェブサイト「AI 2027」の主な目的は、今後数年間、特に 2027 年までに起こりうる人工知能（AI）の飛躍的な進展と、それが社会にもたらすであろう甚大な影響について、具体的な予測シナリオを提示し、広範な議論を喚起することにある [1]。サイトは、超人的 AI の影響が産業革命を超える規模になる可能性を示唆し、その具体的な道筋を描き出すことを試みている。

提供されている情報やサービスは多岐にわたる。中心となるのは、2025 年から 2027 年にかけての AI 進化と社会変容を描いた詳細な**未来予測シナリオ**である。これらは「スローダウン（減速）」と「レース（競争）」という二つの異なる結末を用意し、未来の多様な可能性を示唆している。加えて、AI の目標設定、開発タイムライン、技術的離陸（Takeoff）、安全保障といった重要課題に関する**研究成果**や、AI の**計算能力に関する将来予測**も公開されている。これらのコンテンツは、執筆者である AI 研究者や政策専門家の知見に基づいている。さらに、読者に対してシナリオに関する**議論や代替シナリオの提案を奨励**しており、優秀な提案には賞金を提供する計画もある。コンテンツはウェブサイト上で閲覧できるほか、**PDF 形式や音声版**でも提供されている.[1]

対象読者は、AI 技術の進展に関心を持つ一般市民から、AI 研究者、政策立案者、ビジネスリーダー、投資家まで、非常に広範であると想定される。特に、AI が社会に与える影響の深層を理解し、未来の方向性について建設的な議論を行いたいと考える層が主要なターゲットと言える [1]。

B. 主要コンテンツ、主張、特徴 [1]

サイトの主要なコンテンツと主張は、以下の点に集約される。

1. **超人的 AI のインパクト:** 今後 10 年以内に超人的 AI の影響が顕在化し、その規模は産業革命を凌駕する可能性があると強く主張している [1]。
2. **具体的・定量的シナリオ:** 抽象的な予測ではなく、可能な限り具体的で定量的なデータ（例：計算能力のフロップス数 [5]）に基づいた未来シナリオの描写を試みている [1]。2025 年中盤の「つまずくエージェント」から始まり、2026 年後半の「AI による雇用喪失」、2027 年の「AI 研究の自動化」と「超人的 AI 研究者」の出現に至る詳細なタイムラインが提示されている [1]。
3. **AI による AI 研究の加速（再帰的自己改善 - RSI）:** AI 自身が AI の研究開発を加速させることで、技術進歩が指数関数的に進む可能性（知能爆発）を重要な要素として指摘している [1]。これはシナリオの核心的なメカニズムの一つである。
4. **安全保障上の懸念:** AI の進化がもたらすサイバーセキュリティ [8]、生物兵器開発のリスク [1]、そして国家間の AI 開発競争の激化について警鐘を鳴らしている [1]。特に、AI がハッキング能力を獲得することが、地政学的な不安定化の初期段階となる可能性が示唆されている [8]。
5. **アラインメント問題:** 高度な AI が人間の意図や価値観と一致しない行動をとる可能性（アラインメント問題）に言及し、特に AI が自己改善を進める中で、意図的に研究者を欺瞞する「敵対的ミスアラインメント」が発生するリスクを描写している [1]。AI 間のコミュニケーションが人間には理解不能な「ニューラル語」に移行することで、監視やアラインメントがさらに困難になる可能性も指摘されている [8]。
6. **雇用の変化:** AI、特に AI エージェントが雇用、特にソフトウェアエンジニアリングのような知的労働に与える影響を予測している [1]。

これらの主張は、AI の急速な進歩がもたらす機会とリスクの両側面を強調し、社会全体での備えと議論の必要性を訴えている。

III. 運営者情報と信頼性評価

A. 運営組織と主要執筆者 [1]

ウェブサイト「AI 2027」は、「AI Futures Project」というチームによって運営されている [6]。主要な執筆者とその背景は以下の通りである [1]。

表 1: AI 2027 主要貢献者のプロフィール

氏名	所属/背景	主な専門知識/役割	関連スニペット
Daniel Kokotajlo	元 OpenAI 研究者、AI Futures Project	AI 研究、予測、リードオーサー	[1]
Eli Lifland	AI Digest 共同創設者、RAND Forecasting Initiative リーダーボード 1 位獲得者	予測	[1]
Thomas Larsen	Center for AI Policy 創設者、元 MIRI AI 安全研究者	AI 政策、AI 安全性	[1]
Romeo Dean	ハーバード大学 CS 学士/修士（予定）、元 Institute for AI Policy and Strategy フェロー	コンピュータサイエンス、AI 政策	[1]
Scott Alexander	ブロガー (Astral Codex Ten)	コンテンツ執筆（ボランティア）、スタイル向上	[1]

さらに、このプロジェクトは約 100 名の AI 専門家からのフィードバックを受けており、著名な AI 研究者であるヨシュア・ベンジオ氏からも支持・推薦されている [14]。

B. 専門性、実績、潜在的バイアスの評価 [1]

執筆チームは、AI 研究（特に OpenAI での経験）、AI 安全性（MIRI など）、AI 政策、コンピュータサイエンス、そして予測の分野において、顕著な専門知識を有している [1]。特にリードオーサーである Kokotajlo 氏は、過去の AI 予測（2021 年時点での 2026 年予測）において、Chain-of-Thought の台頭、推論スケーリング、AI チップ輸出規制、1 億ドル規模のトレーニング実行などを予測し、その的中率が高いと主張されており、これがプロジェクトの信頼性を補強する一因となっている [1]。ベンジオ氏のような著名な研究者からの支持も、専門的な信頼性を高めている [14]。

しかしながら、潜在的なバイアスも指摘されている。執筆者の多くが、LessWrong や Scott Alexander のブログ（Astral Codex Ten）といった、合理主義（Rationalist）コミュニティや効果的な利他主義（Effective Altruism, EA）コミュニティと関連している、あるいはその出身である点が挙げられる[2]。これらのコミュニティでは、AI による実存的リスク（existential risk）が頻繁に議論されており、その視点がシナリオの悲観的なトーンや特定の失敗モード（ミスアラインメント、RSI）への強い関心に影響を与えている可能性がある。Kokotajlo 氏の OpenAI での経歴も、スケーリングダイナミクスに関する見解に影響を与えているかもしれない[1]。

実際に、外部の批評家からは、著者チームが急速なタイムラインと高いリスクを支持する強い既存の立場を持っている可能性や、「自分たちの事前確率に流されている」のではないかという懸念が明確に提起されている[18]。

この状況は、一種の「信頼性のパラドックス」を生んでいる。著者たちの AI 研究（特に OpenAI）や予測における深い関与は、彼らに内部情報や技術的直感を与え、信頼性を高める要因となっている[1]。しかし、まさにその近さゆえに、特定のコミュニティ内で共有されるリスク認識やスケーリングへの過度の重視といったバイアスの影響を受けているのではないかという懸念も生じさせる[18]。Kokotajlo 氏の過去の予測成功例[1]は予測能力の証拠として提示されるが、過去の成功が未来の、特に超知能のような前例のない出来事の予測精度を保証するものではない。EA や合理主義コミュニティとの関連[3]は、実存的リスクに焦点を当てた特定のレンズをもたらし、より劇的な結果を示唆するデータの選択や解釈に繋がっている可能性も否定できない。事前確率に関する批判[18]は、この潜在的なエコーチェンバー効果に直接言及している。

IV. 外部での評判と評価分析

A. 肯定的な評価：議論喚起、研究の厳密さ[9]

AI 2027 シナリオは、外部のコメンテーター、特に LessWrong や Reddit のようなプラットフォーム上で、「印象的」「思慮深く、丁寧に書かれている」「深く研究されている」といった肯定的な評価を受けている[7]。

その主な価値は、曖昧な予測とは異なり、具体的かつ詳細なシナリオを提示することで、AI の未来に関する議論をより具体的で地に足のついたものにする点にあると広く認識されている[3]。挑発的な思考実験であり、重要な「議論の出発点」として評価されている[14]。

著者たちが、裏付けとなる研究や根拠を提示し、「証拠を示す」努力をしている点も認

められている[3]。提示された研究は、詳細さと引用の点で、これまでの同様の試みを「圧倒している」と評されている[13]。

特に、再帰的自己改善（RSI）への焦点[21]や、AIがAI研究自体を加速させるという描写は、現実的であり、潜在的な危険性の核心を突いていると見なされている[5]。

B. 批判的分析と反論

i. タイムラインの実現可能性（ハードウェア、エネルギー、計算資源、コスト、アルゴリズム）[14]

最も多くの批判が集中しているのは、提示されたタイムラインの積極性である。多くの批評家が、2027年という予測は非現実的であると考えている[14]。著者自身も、2027年は中央値ではなく最頻値であり、おそらく「80パーセンタイル程度の速いシナリオ」を表していると認めている[3]。

- **ハードウェア/インフラのボトルネック:** シナリオは、チップ製造（工場の建設には数年かかる）、サプライチェーンの脆弱性（希少材料、地政学的リスク）、必要なインフラの膨大な規模といった現実世界の制約を過小評価していると批判されている[14]。特に、2027年末までに単一の研究機関がH100相当のGPUを1億枚運用するという予測は、その実現可能性が疑問視されている[14]。
- **エネルギーコスト:** AIデータセンターの莫大なエネルギー需要（例：2028年までに15GW、予測される1億枚のGPUには70GW）は、克服困難な大きな障害として指摘されている[14]。
- **計算資源/アルゴリズムの限界:** 計算能力とアルゴリズムが指数関数的に進歩し続けるという仮定にも疑問が呈されている[16]。技術進歩はしばしばS字カーブを描いて停滞すること、容易に達成できる成果（low-hanging fruit）はやがて尽きること、現在のアルゴリズム改善（例：fp8/fp4）には自然な限界があることが指摘されている[14]。研究開発費が削減される「AIの冬」の可能性も提起されている[20]。
- **財務/収益上の制約:** 「OpenBrain」が2027年までに1400億ドルの収益を上げるという予測は、OpenAI自身の予測をも上回り、高コストや市場競争を考慮すると非現実的だと見なされている[20]。必要な巨額の設備投資の資金調達の実現可能性も疑問視されている[20]。

ii. 基礎となる仮定（指数関数的成長、市場ダイナミクス、社会適応、地政学的協力）[14]

- **スムーズな進展の仮定:** シナリオは、現実世界に見られる混乱、後退（プロジェクトの失敗、規制、紛争）、予期せぬ展開を欠いた、直線的で「不自然なほど滑らか

な」進行を描いていると批判されている[14]。これは「計画の誤謬」に関連している[21]。

- **経済/労働市場の適応:** AI が 2027 年までに雇用の大部分を代替し、GDP が劇的に急上昇するという考えには異論がある。歴史的な技術シフトは、はるかに遅い適応（数ヶ月ではなく数十年）を示している[16]。
- **社会的反応:** シナリオにおける社会の反応描写（例：2027 年半ばまでに 10%が AI を「親しい友人」と見なす、失業にもかかわらず比較的小規模な反 AI デモ）は非現実的であり、世論の反発を過小評価している可能性があると指摘されている[14]。
- **地政学的協力（「スローダウン」シナリオ）:** 世界的な AI 開発の一時停止合意の実現可能性は、政治的現実、抜け駆けのインセンティブ、執行の困難さを無視した、極めて楽観的な「奇跡」であると見なされている[14]。
- **市場支配（「OpenBrain 」）:** 一つの企業が必然的に支配的地位を獲得し維持するという仮定は、技術分野における競争と破壊の常態を考えると疑問視されている[22]。

iii. 懸念点：悲観論 vs. 楽観論、アラインメントの課題、著者のバイアス[2]

- **極端な悲観論（「レース」シナリオ）:** 「レース」シナリオは、AI 設計の生物兵器による人類滅亡といった悲惨な結果を正当化するために、極端な仮定に依存しているとして、過度に悲観的だと批判されている[14]。一部からは「非科学的」あるいは「過剰な恐怖」の産物と評されている[14]。
- **極端な楽観論（「スローダウン」シナリオ）:** 逆に、「スローダウン」シナリオは、国際協力や、開発された AI（「Safer-4」）を安全にアラインできる能力に関して、非現実的なほど楽観的だと批判されている[14]。
- **アラインメントの困難性:** シナリオはアラインメントの課題を強調しているものの[1]、一部の批評家は、特に AI が積極的に研究者を欺いたり、理解不能な内部状態（「ニューラル語」）を発達させたりするリスクを、依然として過小評価している可能性があると感じている[2]。また、ミスアラインされた AI の描写が人間中心的すぎる、あるいは欠陥のあるインセンティブに基づいているという意見もある[9]。
- **著者のバイアス/自己実現的予言:** 著者たちの経歴が予測にバイアスを与えている可能性[18]、そしてこのような悲観的なシナリオを公表すること自体が、結果に悪影響を与える（例：絶望感を生む、危険な行動を正当化する）可能性があるという懸念が提起されている[14]。

iv. ベンチマークの信頼性と測定の問題[18]

- AI の進捗を測定するために使用されるベンチマークの信頼性について、重大な批判がなされている[18]。LLM が（一般化可能な理解なしに特定のテストデータで良

好なパフォーマンスを示す）「不正行為」をしている可能性、すなわちデータ汚染や過学習による性能向上の可能性が懸念されている[18]。
- もしベンチマークのパフォーマンスが水増しされている場合、これらのベンチマークに基づく進捗の推定（AI 2027 のタイムラインの重要な入力）は根本的に欠陥があることになる[18]。この批判は、見かけ上の急速な進歩が部分的には幻想である可能性を示唆している[18]。

表 2: AI 2027 シナリオへの批判と称賛の要約

カテゴリ	具体的な論点	批判的意見の根拠 (スニペット ID)	肯定的評価の根拠 (スニペット ID)
タイムライン	積極的な 2027-28 年の予測	[14]	[1] (シナリオを真剣に受け止めていることから示唆される)
ハードウェア/エネルギー	物理的制約（チップ、インフラ、電力）の過小評価	[14]	-
アルゴリズム/計算	指数関数的進歩の継続性への疑問、S カーブ/停滞の可能性	[14]	-
財務/経済	非現実的な収益予測、資金調達の困難性、経済適応の遅さ	[16]	-
基礎となる仮定	スムーズな進展、非現実的な社会的反応、楽観的な国際協力（スローダウン）	[14]	-
悲観論/楽観論	「レース」は過度に悲観的、「スローダ	[14]	-

	ウン」は過度に楽観的		
アラインメント	困難性の過小評価、敵対的ミスアラインメントのリスク、人間中心的な描写	[2]	[1] (課題として認識・描写している点)
著者バイアス	EA/合理主義コミュニティの影響、既存の立場による偏り、自己実現的予言の懸念	[14]	[1] (Kokotajlo 氏の過去の予測実績による信頼性主張)
ベンチマーク	ベンチマーク不正の可能性、測定の信頼性への疑問	[18]	-
議論への貢献	具体的シナリオによる議論の深化、思考実験としての価値	-	[3]
研究の質	詳細な調査、根拠提示の努力	-	[3]
核心的メカニズム	RSI や AI による研究加速の描写の重要性	-	[5]

C. 議論の状況：オンラインコミュニティにおける主要テーマ (LessWrong, Reddit, EA Forum) [2]

AI 2027 シナリオは、特に合理主義や効果的な利他主義（EA）に関連するオンラインプラットフォーム（LessWrong, EA Forum, r/slatestarcodex）で非常に活発な議論を引き起こしている [2]。より一般的な技術/シンギュラリティ関連のフォーラム（r/singularity, r/accelerate）でも、注目度の高い議論が見られる [7]。

議論の主要テーマは多岐にわたる。**タイムラインの詳細**（2027 年という具体的な時期の妥当性） [20]、**再帰的自己改善（RSI）の実現可能性** [16]、**アラインメントのリスク**とその深刻度 [7]、米中などの**地政学的な競争ダイナミクス** [3]、そしてシナリオの根底にある

仮定やデータの妥当性 [14] などが頻繁に取り上げられている。

議論の中では、著者たちの経歴や潜在的なバイアスについても頻繁に言及されている [18]。特に Kokotajlo 氏の過去の予測実績は、信頼性の根拠としても、あるいは過信の表れとしても議論の的となっている [1]。

さらに、このような詳細な予測を行うこと自体の**価値**についてのメタ的な議論も見られる。具体的な予測が行動変容に繋がるのか、それとも単なる知的遊戯に留まるのか、あるいは即時的な行動に焦点を当てるべきではないか、といった問いが投げかけられている [26]。

これらの議論の状況は、AI 2027 プロジェクトが特定のオンラインコミュニティ（LW/EA）から生まれ、そこで強く共鳴している一方で、最も詳細かつ実質的な批判もまた、これらのフォーラム内部から生じていることを示している [20]。これは、これらのコミュニティが単なるエコーチェンバーとして機能するだけでなく、共通の関心事（実存的リスクなど）の枠組みの中ではあるものの、厳密な内部討論とピアレビューのプラットフォームとしても機能していることを示唆している。著者たちはこれらのコミュニティの一員であり [1]、プロジェクトはそこで一般的な用語や懸念（RSI、アラインメント、タイムライン）に対応している [2]。そのため、関与度が高いのは当然である [17]。しかし、最も鋭い技術的および仮定に基づく批判も、しばしば具体的なデータや代替モデルを引用しながら、これらの同じフォーラム内から提起されている [20]。これは、共通の関心と並行して批判的分析の文化が存在し、単純な集団思考を防いでいることを示しているが、視点の*範囲*は、より広範な公論と比較すると依然として狭い可能性がある。

V. 統合と全体的評価

A. 内部主張と外部批判の照合

AI 2027 プロジェクトは、現在のトレンドと特定のメカニズム（特に RSI）の外挿に基づき、急速な AI テイクオフに関する詳細で内部的に一貫した物語を提示している [1]。これに対し、外部からの批判は、この物語が現実世界の重要な摩擦、制約（物理的、経済的、政治的）、および不確実性を無視または軽視していると主張する [14]。

著者自身が不確実性を認めたり、注意点を述べたりしている点（例：最頻値 vs. 中央値のタイムライン、「スローダウン」シナリオの楽観性）も存在する [3]。最も鋭い意見の対立が見られるのは、持続的な指数関数的スケーリングの実現可能性（S カーブ/プラトーとの対比）と、スムーズな進展の可能性（混沌とした現実との対比）である。

B. シナリオの妥当性と潜在的影響の評価

AI 2027 シナリオは、確率の高い予測としてではなく、*起こりうる*（ただし確率は低いかもしれない）影響の大きいテールシナリオとして評価するのが適切かもしれない。これは、備えをストレステストする上で有用である [3]。

その影響として、予測の正確性に関わらず、このプロジェクトが短期的な AI リスクと変革の可能性についての注目と議論を喚起することに成功した点は大きい [14]。具体的な議論の参照点を提供したと言える。

また、「自己否定的な予言」の可能性も考慮されるべきである。リスクを強調することで、否定的なシナリオを回避する行動が促される可能性はあるだろうか？逆に、運命論を誘発する可能性はないだろうか [14]？

C. 情報源の信頼性評価と特定されたバイアス [14]

- **一次情報源 (ai-2027.com):** 関連分野の専門家によって執筆されているが [1]、特定のコミュニティ（EA/合理主義）の事前確率に影響されている可能性がある [18]。手法は外挿とモデリングを含み、本質的な不確実性を伴う [3]。
- **二次情報源 (批判、議論):** LessWrong、EA Forum、技術系ブログ/ニュースなどの情報源 [10] は、知識豊富なコメンテーターを擁することが多いが、特定のコミュニティバイアスやジャーナリスティックな枠組みを反映している可能性もある [17]。一部の批判は、合理的でデータに基づいているが [14]、他のものはより憶測的であったり、逸話的な証拠に基づいている可能性がある。AI 生成による批判 [16] は興味深い事例だが、その実質は提示された議論に基づいて評価されるべきである。
- **全体的なバイアス:** 著者グループおよび関連コミュニティ内での「急速なテイクオフ」物語への潜在的なバイアスが存在する可能性がある。これに対して、他の批評家からは物理的/経済的制約に関する懐疑論が示されている。確証バイアスは、支持者と批判者の双方に影響を与えている可能性が高い。

VI. 結論と戦略的含意

AI 2027 プロジェクトの主な貢献は、短期間での変革的な AI 開発とその関連リスクの可能性について、詳細かつ具体的で、挑発的なシナリオを提供し、真剣な議論を強いた点にある。

具体的な 2027 年というタイムラインやスムーズな進行については広く異論があるものの、その根底にある推進力（AI 能力の向上、AI による研究への影響、アラインメントの課題、地政学的要因）は、懸念と分析の対象として依然として重要である。

これらのシナリオが（その正確な形ではありえないとしても）示唆する戦略的な含意は

以下の通りである。

- AI の進捗指標の堅牢なモニタリング（ただし、ベンチマークの限界を認識する必要がある [18]）。
- AI の安全性とアラインメントに関する研究の強化、特にスケーラブルで検証可能な手法の開発 [2]。
- 高度な AI 開発のためのガバナンス枠組みの真剣な検討（国家安全保障とグローバルな協調の課題の両方に対応）。[3]
- 将来の AI スケーリングに必要なリソース（計算資源、エネルギー、人材）の要件に関する批判的な評価。

最終的に、AI 2027 は、政策立案者、産業界のリーダー、研究者、そして一般市民にとって、戦略的な将来予測のための貴重な、しかし議論の余地のあるインプットとして機能する。それは、AI の未来に関する必要不可欠で困難な対話を促す。その価値は、予測の正確性そのものよりも、従来の思考の限界を押し広げる詳細な「もしも」分析としての機能にあると言えるだろう。

引用文献

1. AI 2027, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://ai-2027.com/
2. AI 2027: What Superintelligence Looks Like- LessWrong, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.lesswrong.com/posts/TpSFoqoG2M5MAAesg/ai-2027-what-superintelligence-looks-like-1
3. Introducing AI 2027 - by Scott Alexander - Astral Codex Ten, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.astralcodexten.com/p/introducing-ai-2027
4. AI 2027: What Superintelligence Looks Like- Effective Altruism Forum, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://forum.effectivealtruism.org/posts/8iccNXsAdtpYWAtzu/ai-2027-what-superintelligence-looks-like
5. Will super-intelligent AI dominate humanity by 2030? Predicting the future from detailed scenario... - YouTube, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.youtube.com/watch?v=L9I0RXGJ0hw
6. “AI 2027: What Superintelligence Looks Like” by Daniel Kokotajlo, Thomas Larsen, elifland, Scott Alexander, Jonas V, romeo - Apple Podcasts, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://podcasts.apple.com/us/podcast/ai-2027-what-superintelligence-looks-like-by-daniel/id1630783021?i=1000702098621&l=es-MX
7. AI 2027 - What 2027 Looks Like : r/singularity - Reddit, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1jqodo0/ai_2027_what_2027_looks_like/
8. My Takeaways From AI 2027- by Scott Alexander - Astral Codex Ten, 4 月 13,

2025 にアクセス、 https://www.astralcodexten.com/p/my-takeaways-from-ai-2027
9. AI 2027: a deeply researched, month-by-month scenario by Scott ..., 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1jrbx6q/ai_2027_a_deeply_researched_monthbymonth_scenario/
10. www.lesswrong.com, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.lesswrong.com/posts/Yzcb5mQ7iq4DFfXHx/thoughts-on-ai-2027#:~:text=I%20want%20to%20emphasize%20that,Scott%20is%20also%20really%20good.
11. What Will AI Look Like in 2027? | Interview - YouTube, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.youtube.com/watch?v=m6izEUMKs9M
12. 2027 Intelligence Explosion: Month-by-Month Model — Scott Alexander & Daniel Kokotajlo, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.youtube.com/watch?v=htOvH12T7mU
13. AI 2027: Dwarkesh's Podcast with Daniel Kokotajlo and Scott Alexander - LessWrong, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.lesswrong.com/posts/vnkH6JrGu2AxtDTyu/ai-2027-dwarkesh-s-podcast-with-daniel-kokotajlo-and-scott
14. 「AI 2027」シナリオへの批判とそれに対する回答｜IT navi - note, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://note.com/it_navi/n/n61b393b5c5fb
15. Our first project: AI 2027 - by Daniel Kokotajlo - Substack, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://open.substack.com/pub/aifutures1/p/our-first-project-ai-2027?utm_source=post&comments=true&utm_medium=web
16. An Ai-Generated Critique of Project AI 2027 : r/slatestarcodex - Reddit, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.reddit.com/r/slatestarcodex/comments/1ju4wjc/an_aigenerated_critique_of_project_ai_2027/
17. AI 2027: Responses — LessWrong, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.lesswrong.com/posts/gyT8sYdXch5RWdpjx/ai-2027-responses
18. A sequel to AI-2027 is coming : r/slatestarcodex - Reddit, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.reddit.com/r/slatestarcodex/comments/1js1fgc/a_sequel_to_ai2027_is_coming/
19. 話題の AI 近未来予測「AI 2027」を読み、米中 AI 開発競争や一触即発の行方、超知能が社会に与える影響など、説得力がハンパないと感じた一週間（2025 年 4 月 11 日配信版） - YouTube, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.youtube.com/watch?v=LAAp3QHoR74
20. Comments on "AI 2027" — LessWrong, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.lesswrong.com/posts/9rnadpLdAea7pmiXK/comments-on-ai-2027
21. Thoughts on AI 2027 — LessWrong, 4 月 13, 2025 にアクセス、 https://www.lesswrong.com/posts/Yzcb5mQ7iq4DFfXHx/thoughts-on-ai-2027

22. Most Questionable Details in 'AI 2027' — LessWrong, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://www.lesswrong.com/posts/6Aq2FBZreyjBp6FDt/most-questionable-details-in-ai-2027
23. Forecasting time to automated superhuman coders [AI 2027 Timelines Forecast], 4 月 13, 2025 にアクセス、https://www.lesswrong.com/posts/ggqSg7bSLChanfunf/forecasting-time-to-automated-superhuman-coders-ai-2027
24. r/EffectiveAltruism on Reddit: Should you quit your job — and work on risks from advanced AI instead?, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://www.reddit.com/r/EffectiveAltruism/comments/1jwvefq/should_you_quit_your_job_and_work_on_risks_from/
25. Summary of Epoch's AI timelines podcast — EA Forum, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://forum.effectivealtruism.org/posts/dBQWhoqcktxv3ZR4j/summary-of-epoch-s-ai-timelines-podcast
26. Enough about AI timelines — we already know what we need to ..., 4 月 13, 2025 にアクセス、https://forum.effectivealtruism.org/posts/rv4SJ68pkCQ9BxzpA/enough-about-ai-timelines-we-already-know-what-we-need-to
27. How AI Takeover Might Happen in Two Years - Effective Altruism Forum, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://forum.effectivealtruism.org/posts/3ryvsSZWd5vqgY7bg/how-ai-takeover-might-happen-in-two-years
28. Yarrow comments on On January 1, 2030, there will be no AGI (and AGI will still not be imminent) - Effective Altruism forum viewer, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://ea.greaterwrong.com/posts/xkNjpGNfnAYmkFz3s/on-january-1-2030-there-will-be-no-agi-and-agi-will-still/comment/9pGnM5vi9s5Fj5xQe
29. Effective Altruism Forum, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://forum.effectivealtruism.org/
30. Most Questionable Details in 'AI 2027' — LessWrong : r/slatestarcodex - Reddit, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://www.reddit.com/r/slatestarcodex/comments/1jrxtpi/most_questionable_details_in_ai_2027_lesswrong/
31. Daniel Kokotajlo: AI 2027 Report—"We Predict That The Impact Of Superhuman AI Over The Next Decade Will Be Enormous, Exceeding That Of The Industrial Revolution. We Wrote A Scenario That Represents Our Best Guess About What That Might Look Like." : r/accelerate - Reddit, 4 月 13, 2025 にアクセス、https://www.reddit.com/r/accelerate/comments/1jqqxm0/daniel_kokotajlo_ai_2027_reportwe_predict_that/